

総務文教常任委員会会議録

(令和3年7月1日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和3年7月1日(木)
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	尾崎恵一
委員	池田栄次	委員	金繁典子
委員	原田達也	委員	吉村直城

欠席委員

委員 那須芳人

出席委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	局長補佐	小松一恵
--------	------	------	------

説明のため出席した者

(防災対策課)

課長	守口庸夫	係長	西平典正
----	------	----	------

本日の委員会に付した案件

- (1) 所管事務調査(机上審査)
本町における防災の現状と課題について
- (2) 現地調査について
- (3) 先進地視察について
- (4) その他

開会	10時00分
閉会	11時22分

○尾崎副委員長 皆さん、こんにちは。それでは、所定の時間となりましたので、ただいまから総務文教常任委員会を開会いたします。

まず、会議に先立ちまして石川委員長より御挨拶をお願いいたします。

○石川委員長 皆さん、おはようございます。本日は、防災の関係を説明いただく守口課長と西平係長に来ていただいて、防災の関係を審議させていただきます。それに先立ちまして、昨日の新聞ですか、ワクチン接種の愛南町の1回目が75%で、2回目も33%を超えてると新聞報道がありまして、順調に愛南町については、ワクチン接種も進んでおります。コロナも一つの災害という捉え方もできますが、本日はですね防災という形で、町民の命と財産を守るという観点から、皆さんに御協力をいただきたいというふうに思っております。

本日はよろしくをお願いいたします。

○尾崎副委員長 それでは早速本題に入ってまいります。これからの進行、取りまとめ、石川委員長、よろしくをお願いいたします。

○石川委員長 それでは、所管事務調査といたしまして、本町における防災の現状と課題について説明を求めます。

○守口防災対策課長 防災対策課の守口です。それと今日は、自主防災組織と個別避難計画の担当の西平になります。よろしくお願ひします。

それでは、本町における防災の現状と課題について説明いたします。

資料1のほうをごらんになってください。

まず自主防災組織についてですが、現在町内に86組織あります。結成率は100%で、全地域、全地区で結成をしております。昨年度、栄町と福浦の自主防災会については再編成について協議をいたしまして、栄町については、その資料にありますように、今年度令和3年度に4組織に再編成をしております。

次に、2の防災訓練学習会についてですが、令和2年度、延べ33回実施をしております。参加者数は1,096人になります。令和元年度に比べて回数が増えているのは、先ほど説明しました一自主防災会で再編成等に係る学習会など10数回に分けて実施しておりますので、その分回数が増えております。コロナの影響で思うように訓練や防災学習会を実施することができなかったのが現状です。

次の3の(3)の地区防災計画についてですが、地域コミュニティにおける共助による防災活動の推進の観点から、地域が主体となった自発的な防災活動に関する計画になりますが、以前、独自で作成した自主防災会があったのですが、現在地区防災計画として作成している自主防災会についてはありません。

次に、2の個別避難計画についてですが、避難行動要支援者名簿の対象者について、災害時等の支援を受けるための個人情報等の提供の同意確認を行い、その後、個別避難計画を作成することになっております。その(2)の個別避難計画策定者数についてですが、今年の5月20日現在で対象者数が3,355人、そのうち情報提供等の同意していただいた方が1,124人、その中で個別避難計画策定者については376人になっております。令和元年度、令和2年度については、郵送による同意確認を実施しており、その2年間で807名の方の同意をいただいております。

課題といたしましては、先ほどの地区防災計画、個別避難計画ともに地域での支援体制づくりだと思っております。個別避難計画につきましては、一番最後(3)の今年度の取組といたしまして、地域が主体となって関係機関と連携して実効性のある個別避難計画の作成、検証を行う体制を構築することを目的として、県の個別避難計画作成体制モデル事業を福浦地区で実施することとしております。そこにありますように、スケジュール案としまして、7月、今月から福浦自主防災会の役員や関係機関が集まって調整会議

を開催します。ここで個別避難計画の作成体制の手順等について確認し、課題や改善方法などについても、その後会議で検討していきたいと考えております。9月から防災学習会を開催し、防災マップの確認等により地域を把握して、避難行動要支援者の洗い出しや避難支援者の選定を行いたいと考えております。10月から戸別訪問等により個別避難計画を作成し、その後、その計画検証として作成しました個別避難計画について、訓練等を通じて内容の実効性の検証を行い、最終的には、その一番下の2行にありますように、一連の流れを実効性のある個別避難計画作成体制としてマニュアルにまとめ、町内のほかの地域にも要綱展開できるような体制の構築を目指していきたいと考えております。

以上です。

○石川委員長 説明が終わりました。今の説明について、資料について質問がある方。

本日、那須委員が病気のために欠席されております。

尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 ちょっと確認します。今回は、福浦地区に対してこういった個別避難計画作成していくということであるかと思うんですけど、これでマニュアル化をして他の85組織ですかね、に対して、これからやっていくということになるのかな。ということは、現状としてはコロナ禍にある避難行動要支援者、この人たちの情報とか名簿はまだできてない状況、これからやることになるのかな。

ちょっと調べたら、東日本大震災を教訓として、25年6月に災害対策基本法がちょっと変更されて、避難行動要支援者の名簿は市町村においては作成の義務化されとるわけよ。平成25年度、既にもう7～8年たった中でちょっと遅いかなという気がして、喫緊の課題ではないのかなというような思いがあって。

○守口防災対策課長 すみません、説明不足で。

避難行動要支援者名簿はできてます。今、避難行動要支援者名簿、町が作ってる分については、災害時には使用することができる名簿になります。それまでのその各地区での訓練や、先ほど説明したその個別避難計画を作成するには、その方の同意が必要になります。同意を取って地域の方にお知らせできるのも一応その要支援者名簿にはなるんですけど、ちょっと同じような言い方になってしまうんで、私はその同意をもらった方の名簿については要支援者台帳という言い方に変えとるんですけども、それが今、ある程度全員出せる地域の方にお見せできるように同意を取っている段階です。実際のその名簿というのはあります。ただ、それは災害時でないで使用ができませんので。

○石川委員長 副委員長。

○尾崎副委員長 おぼろげに、愛南町全体の個別避難計画の策定する目標年度というのは、大体決めてやりよんかな。何年度につくり上げるということを目標に、そこがないと。

○石川委員長 守口課長

○守口防災対策課長 正確に何年度までというのはまだ考えてはおりません。できるだけ早く進めたいとは考えております。

先ほど、福浦で県のモデル事業で進めてはおるんですけど、ほかの地域についても、個別避難計画を作るまでの前段階のその各地域でのそういう要支援者の洗い出しであったり、あと見守り隊的なことで訪問されたりとか、そういうのも少しお願いをしておりますので、ある程度その福浦ができて、ほかの地域ってまた一からというわけじゃなくて、なるべくそのスムーズにできるような形で、なるべく各地域で早く作れるようにとは思っております。

○石川委員長 尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 これからどんどんどん高齡化は進展して、被害に遭ったときに逃げられない高齡者というのはどんどん増えていきますので、喫緊の課題としてこれをやっぱり取り組んでいただきたいと思っております。

お願いします。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 私も同じところがとても気になっているんですけども、これ、個別計画作るって本当大変なことなんですよ。防災課だけではできないことじゃなくて、その県のモデル地区として、県がある程度主導権というかバックアップがあってできると思うんですよ。

だから、これをまずやってから全町的になっていうのも一定の理解はできるんですが、ただやっぱり防災課だけで、じゃあ残りの課をできるかといったら、やっぱりそれは無理だと思うんですよ。だから、ぜひこの機会に先進事例、私は黒潮町がいいと思うんですけども、全国に先立って、やっぱりしっかりした個別計画をつくったところを視察して、防災課だけでなく、トップから協力を各課に仰いでもらわないことにはね、なかなか全体として動けないので、むしろ防災課のほうから、こういうサポートがあればやれるっていうことを、ぜひこの委員会で具体的に出していただけるような内容になったらなと今思っています。

それで質問なんですけども、このモデル事業のチーム体制、連携関係機関書いてあるんですが、何人ぐらいのチームで、誰がリーダーになってっていう、月に何回ミーティングしてとか、そういう大まかなこう内容、概要を教えてくださいませんか。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 その福浦の体制なんですけど、まず、来週1回目の会議を行うんですけども、それは顔合わせ的なことにはなるんですけど、うちの町としてもその防災対策課、保健福祉課、高齡者支援課で包括支援センターと、あと民生委員協議会という方々も参加していただいて、あとは地域の恐らく役員、1回目は役員さんになると思うんですけど、そこである程度話して、先ほどの最初の自主防災会へのときにも言いました福浦も、今自主防災会を再編成しようと、4つぐらいに分けろうという話をしてますので、恐らく主体はその4つに分けて、動き出して、4つの中にも各組がありますので、また、その中の組の方々がそれぞれ動いていただくようになると今のところ考えております。来週会議をしてからにはなります。ということで、その防災対策課だけではなくて、そのほかの課にも一応協力は仰いでますので、そういう協力体制でいきたいと思います。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 その委員会は傍聴はできるんですか。ほかの地区の人たちの参考にもなると思うので、オープンだったらいいなと思うんですけど。

○守口防災対策課長 区長というか、自主防災会長にもちょっと確認してみます。

はい、すみません。

(発言する者あり)

○石川委員長 逆に区長を呼んだらいいんじゃないん。あの希望者だけ、案内だけしとくと。

○守口防災対策課長 それは、金繁委員が見に行かれるというんやなくて、ほかの方。分かりました。それやったらちょっと2回目、3回目少し具体的になってから見に来てもらうか、何回かはその各自主防災会の会長集めての会議も行いますので、そこでちょっと福浦の方来てもらって、今こういうふうに進めてますとか、まあ、どっちかに。

○石川委員長 現場見てもらうのがええやろ。僕はいんじゃないかなと思います。

○守口防災対策課長 はい、そのほうがいいです。分かりました。そういうことで考えていきます。

○石川委員長 先ほどの金繁委員の、どんなサポートがあれば早期にできるんですかという質問についてはどうですか。

金繁委員。

○金繁委員 すいません私の趣旨は、今答えていただくのもいいんですけども、私の指摘の趣旨は、この委員会を通じて、先進事例とか勉強した上で吸収できることもあると思うので、その委員会の結果としてそれが具体化できたらいいなと、見えてきたらいいなと思っています。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 ちょっと具体的な話になって申し訳ないんですが、この個別避難計画のときに、各福祉関係、いろいろな高齢者支援関係の課が参加されるということなんですが、これ後ほど、後の話になるか具体的にってから話になると思うんですが、実際対象者が要介護者とか、要介護度3から5、身体障害者1～2級となると実際にケアマネさんとか福祉相談員さんとか、そういう人が一番現場いうか、分かっておられると思うんです。第一線で介護されよる。後々には、後々いうか具体化していくと、多分そういう方々の手助けをというか支援をもらわんと、完全というか、なかなか充実した支援体制は取れんようになるんやないかと思うんです。

そこで、そういう現場の人たちの生の声も聞いてもらって、反映させてもらったと思うんですが、地区が一番大事やと思うんやけど、やけどヘルパーさんなんかも要介護の方々の介護に入っておられるケアマネさんも、そういう介護認定された方には関わっておられるんで、そういう人の支援もちょっとできれば、現場の声を聞くのが一番重要なんじゃないかなと思います。どうでしょうか。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 池田委員の言われたとおり、特に要介護度であったり、障害のある方であったり、そういう方はケアマネであったり、障害者の担当職員だったり、そういう方ともいろいろ話はさせていただいて、ある程度その情報ももらうようにしております。その方の個別避難計画を作るようになれば、また担当のケアマネ、ヘルパーのほうにも相談しながら、どういう体制がいいのかっていうのも、また協議をしていきたいと思っております。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 毎年のように警報が出ますよね。特に夏場台風シーズンになると大雨洪水警報それ出て、防災無線等で避難してくれとそういった放送があるんですけど、実際これまでの例を見てみると、避難をされた方というのが非常に少ないんですね。これやっぱり私のところは絶対大丈夫だというそういった観念もあるかと思うんですけど、やっぱり防災組織単位で役割分担を決めて、あそこには高齢者、あるいはひとり暮らしの人がおるので、そこを優先的に避難誘導、家に行ったら避難所に避難してくれと、自分らが一緒に連れていくケースになると思うんですけどね、今までの例を見てみると、それがちょっとまだまだ浸透してないのかなというふうを感じるんですけど、できたらこれからの個別なんですかね、避難計画、これでできたら自主防災組織の中で役割分担決めていただいて、そういった警報が出たときには、誰それがあそこの家には行って、避難を誘導してくれと避難所に、そういった訓練もやっぱり必要があると思うんですけども、これまで去年は30何回かやっとなりますよね、訓練。そういった訓練はやっぱり各地区でやっとなるんですか。それは、どうですか。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 まず、昨年度33回は訓練プラス座学というか、学習支援含めての回数で、実際昨年度はあまり訓練っていうのは、多少やっってはいるんですけども、回数とし

ては少ない回数でやっていますね。その中で、西海の船越、久家、下久家が合同避難訓練、学校と一緒にやったんですが、その中で、特に船越については、船越はある程度自分で、ある程度船越の地区で、そういう要支援者的なのを把握していますので、そちらに全組ではなかったんですけど、少し声かけをして避難するというはやりました。

実は、声かけとか避難誘導というのは、まさしく個別避難計画の一番大切なところで、その方について実際災害時に、誰がそういう避難誘導したり、情報提供したりとかいうのを決めていくのが一番大変な作業にはなるんですが、それを今年福浦で行って、福浦で訓練もする予定にはしとるんですけども、確かに、それがもし今年度何かあったときに、ほかの地域でどうするんかということにもなるので、一応自主防災会の集まりとか会議の中でも、一応そういう声かけ、先ほど言った見守りであったりとか、そういうのは少し話はさせていただいております。多少豪雨を経験した一本松のほうでは、そういう体制をもうつくっとるところもありますので、なるべくそういう計画を作るまでも、そういう声かけとか、そういう地域のつながりの部分は特に早めにやっていきたいと、またお願いしていきたいと考えています。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 ちょっと話、地区防災計画のほうにちょっと戻してしまおうんですが、構いませんか。

その地区防災計画が、作成組織がゼロ組織というのがあるんですが、これ恐らくもうちょっと以前に関わったことがあるんですが、地区独自で、地区独自なもんでいろいろな特徴があるんで、地区独自で計画をつくってくれという投げかけをしとると思うんですが、講習等通じて、これなかなか地区で独自でつくってくれと言われても、大変なんですね。役場の職員さんと違って、地区の人がそれぞれ仕事を持っておられる。その中で自治会長さん以下いろいろやられとるんで、かしこまってしまうと、なかなかできないと思うんですよ。そういう形式ばったものが先か、現実が先かっていういろいろな話もあるかもしれないんですけども、取りあえずそういうものをつくって、それから動いていかんと、なかなか訓練等もいつするとか、そういうものを決めてしまわんと、なかなか動いていかんと思うんですよ。

それで、ひな形、フォーマットですよ。作っていただいたら、それなりのもの、取りあえずそれなりのものができてしもて、それからいろいろと改善していくってことで、恐らく目的とかそういうものに関しては、地区の特徴が入ってくるかもしれないですけどね、それでもひな形を作ってこれに書き加える、入れてくださいと。

例えば緊急連絡網なんかってというのは、ひな形作って、枠を作って、それに入れてくれと、そういうものを作って、本当に10ページぐらいでも大丈夫だとは思いますが、そういうものを作ってから、このひな形に沿って1回作ってくれと、それから徐々に改善うか、地区の特徴が出てくるとは思うんですが、そういう方法はとれないもんですかね。

要は、緊急連絡網とか、いろいろなそういう組織立ったものはもうどこでも同じものなんで、その中に名前と電話番号を入れさえしたらええというような、そういうものをひな形を作って、これに沿って計画をつくってくれというようなことはできないでしょうか。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 まず、ひな形なんですが、愛南町指定のひな形っていうのは作ってはないんですけど、各ほかの自治体であったり、国のモデルであったり、そういうもののひな形というのは集めていますので、またそれを使っただいて、今池田委員が言われたように、地域のほうでそこに当てはめていけるようなものを作ってもらうように進めて

いきたいと思います。

今、各自主防災組織、結成時に規約と緊急連絡先であったり、各体制の名簿というのは作ってはいるんですけども、まだ実際に、平時と災害時にどういう活動をするかとかいうのまでは、それが地区防災計画ではなっていくんですけども、そういうのはまだ作ってませんので、ある程度ひな形でつくりながら、あと重要なのはその各地域、さっき言うた特性があるので、危険度、どこに何があるかとかいうのを把握していただいて、最終的にそれが地区防災計画かなとは思ってますので、ある程度そうやってこちらから示せるものは示して、なるべくつくりやすい体制で、よく国のほうからも会議は集まりやすいような雰囲気でもやりますといわれますので、そういう形でまたやっていききたいと思います。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 地区防災計画を作るに当たってなんですが、地域地域の方たちから、防災計画もないという危機感は結構声を聞くんですね。じゃあ、それを作ろうかと地域に自主的に動いてもらうためにどうしたらいいかということなんですけど、今自主防災の組織のトップというか、区長さん、行政協力員ですよ。やっぱり行政協力員の方って、地区によってまちまちですけども、結構短期間で替わってしまう。せっかく個別計画までつくった、緑もそうなんですけれども、らしいんですけども、昔、区長さん替わったらそれアップデートするのが止まってしまったりとか、実際に作っていてもそういうことになったりするので、片や防災士の資格を、私もバックアップしていただいて取りにいますけど、町内に随分増えてきたんじゃないかと思うんですよ。

だから、地域地域のその防災士さんたちに声をかけて、連携してもらって、行政協力員さんとも協力してもらって、私も今見たら内閣府がもう立派なフォーマットみたいな作ってますから、ガイドラインも。その材料を与えてというか、ちょっと教えてあげて、まず動いてもらうというようなやり方もいいかもしれませんね。というのをちょっと思いました。いろいろな視察してみて、いろいろなパターンがあって一番よいものを選んだらいいと思うんですけど、どうですかね。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 今、金繁委員が言われたように、大半が今自主防災の会長がその行政協力員、区長さんになってますので、この前、自主防災会の各地域の代表の方を集めての役員会したときにも、その話をちょっとさせていただいて、必ずしも区長さんが、自主防の会長をする必要がないという言い方あれなんですけど、別の方で長くやっていた方がおれば、またそういう方をお願いして構いませんのでという話はさせていただいて、先ほど言った規約の中に、自主防災会の会長が、区長がっていうところも中にはあるので、その辺もあれやったら見直しして、そういう防災士とか知識を持たれた方で、会長される方がおればやってくださいということで、特に先ほどからよく出る福浦と栄町については、会長よりか防災士の方が積極的に動いてくれますので、その方が地域に入って地域を動かして進めていますので、そういうリーダー的、区長さん以外でリーダー的な方がとにかく必要かなと思ってます。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 今出た防災士ですね。これは各地区やっぱり現在何名かはもうおられるんですよ。どうですか、全くおらん地区っていうのはないですかね。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 あります。

(発言する者あり)

○守口防災対策課長 今86組織、自主防の中で9組織まだ、特にその自主防の会長さんには

積極的にお願いはしとるんですけども、なかなかほほほ高齢の方しかいないとか、なかなか難しい。毎年ちょっとずつは減ってはきてるんですけど、なるべく。

以前は、この防災士取るというのも大体広報でお知らせしてやったんですけども、昨年からもう、ある程度強制的やないですけども、各自主防災会長に案内を出して、特にいないところに関しては出して、とにかくつくりませんかという、防災士をお願いしますというので。なるべく100%目指したいと思います。

○石川委員長 尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 先ほど名簿、避難行動要支援者も作成されとるということですけども、あれは、所定の様式の中で行政区ごとにリストとして上げてるんですか。それで今現在、愛南町で何名程度その対象になるんかが。

○守口防災対策課長 その3,355人が対象者になります。

○石川委員長 この情報提供同意者は、各地区ごとに区長なり自主防災会の会長宛に名簿は出されてますか。その地区ごとに、その名簿。

○守口防災対策課長 その名簿ですか。各その地区の要支援者名簿、全員の名簿というのは出してないです。というのは、同意を。

○石川委員長 その同意をもらっている方については。

はい。

○守口防災対策課長 もらっている方についてもまだ出してないです。

○石川委員長 逆に、避難してくださいと言われて、助けたいけど、誰が、どう対象になってるかというのを、区長なり地区の方が理解してないと、支援のしようがないと思うんですよね。それ、何か出されてない何か理由があるんですか。

○守口防災対策課長 そのこの地区の実際の全要支援者の対象者ではなくなってしまうので、ある程度同意をもらった方だけしか渡せないの、言い方悪いんですけど、歯抜けの状態になってしまうんで、ある程度それが、同意がまとまれば、一応区長の方に渡して、この方について、先ほど個別避難計画を進めていきたいとは考えておるんですけど、まだ、今は渡せてないです。

○石川委員長 逆にですね、この対象者全員に対して、レベル3になったらどこに連絡しなさいとか、地区の区長さんとか自主防災会の会長さんに支援を求めてくださいということと、それと地区の会長さんとか自主防災会の会長さんに対して、こういう要請があったら支援に行ってくださいませんか、というような双方向の情報連絡というのは、指導を含めてされてるかどうか。

○守口防災対策課長 そこまで詳細な情報提供や、やり取りというか、まだやっておりません。それぞれ先ほど言いました各地域で、それぞれそういう対象になう方というのを洗い出しとかいうのをやっていただくようなお願いをしとるんですけど、それができるところも実際ありはするんですけども、あと地域で把握しとるということも。こちらからのその名簿というのは、どうしても全員ではないので、なかなかちょっと渡しにくいところがありまして、ある程度同意が取れば渡したいとは思ってるんですけど、必ずその方だけではなくてになってしまうんで、実施そのほかにも対象者という方が、同意を取ってない方がおられるんで、そこはちょっといつも悩ましいところではあるんですけど。

○石川委員長 逆にこの情報提供同意者の方には、そこからでも、先にやっぱり地区の方に情報提供して支援を。私、公助というのはもう災害が起きるまでの準備、これに集中的にやるべきじゃないかなと。実際起きた場合には、もう共助、地域の方の力を借らざるを得ないというふうに私は常々ちょっと思とるんですけども、そういう意味からすると、私の考えでは、もうちょっと情報提供して、地域の方に支援を呼びかけるという形

のほうがいいんじゃないかなというふうには思うんですが、これ実際、対象者数の中の情報提供同意者が、ある程度の割合になったら情報出そうということですけども、各地域が調べてやりなさいと、あまりにも不親切じゃないかなというふうに私は思っていますけれども、そのあたり、今年度中にはこの情報提供同意者については情報出しますというのかね。そのタイムスケジュールをちょっとお聞きしたいんですけども。

○**守口防災対策課長** その名簿の年に1回更新というのがありまして、更新というのは、各先ほど言われたケアマネであったり、そういう情報を頂いて、あと保健福祉、高齢者支援課のほうからも情報を頂いて、そのデータを取りまとめるのが大体9月になります。9月には、最新の各方々の情報、介護度であったりいろいろな情報も入ったのができるんですけど、実際9月になる。で渡すと、確かに、もう9月など多少台風時期ではあるんですけども、今のこの出水期では遅い気もします。ただ、今年度まだそういう形で渡してませんので、ある程度今年度も今の状態のものを渡せるようにしたいと思います。来年度についてもできれし、年度初め、出水期までには、この梅雨までにはある程度その情報についても渡せるようなことをしたいと思います。

○**石川委員長** 金繁委員。

○**金繁委員** 防災対策課って今何人いらっしゃるんですか、課長以下。

(発言する者あり)

○**石川委員長** 金繁委員。

○**金繁委員** その6名だけで個別計画作るのはとても無理だと思います。やっぱり日々の防災対応、防災じゃないその大雨警報が出た、待機して、とかいろいろなことされてる日々の仕事で一生懸命で、手いっぱい、なかなか計画をつくって個別計画実施していくというのは、それだけでやっぱりもう私はまず無理だと思うんですよね。だから、やっぱり組織的な相当のサポートが必要じゃないかと思えますけど、その辺はあれですか、ほかの先進地とか既に調べたりとか、こういう組織をつくりたいとかそういうのはあるんですか。

○**石川委員長** 守口課長。

○**守口防災対策課長** ほかの自治体のことはまだ余り調べてはないんですけども、ほかの近隣の自治体ぐらいしか分からないんですけど、あまりうちと職員数としては変わっていない状況で同じ作業を大体しております。

個別計画についても、戸別訪問して作成するのは、今考えてるのは、民生委員と自主防の会長さん、そして先ほど言われた防災士の方で動ける方がいたら、その方たちで訪問して作っていただいて、最終的に、その訪問でその方の大体状況とかいうのは聞き取りで分かるんですけど、一番大事なのは、その人を誰が支援するかというのは、なかなかその方に聞いても、その方も誰かとは言うんですけど、それを集めてみると、みんな支援者が同じ区長さんであったりとなると、区長さんが災害時にその何人の方も支援はできないので、それは各地区で一度できたのを集めて、相談しながら、じゃあこの人はやっぱり近所のこの人についていう形をとりたいたいで、そこに私ども出席、参加して、あと保健福祉課、高齢者支援課の方も参加しながら作っていかうかなとは思っています。

個別に回るのは、今のところ考えておるのは各地域の方で、のほうが、家に来られた方も安心して相談されると思うので、なかなか一応防災対策課で行くとしても、なかなか今の時代、ちょっと不信がられる方もおられるんで、なるべく地元の方でそういうところはやっていただきたいなど。

○**石川委員長** 金繁委員。

○**金繁委員** そうですよ。やっぱりもちろん防災対策課も大変なんですけど、頑張ってもらわんといけんんですけども、地域の人たちの自主防災の意識をどれだけ広げて目覚め

しえていくかっていうところが、やっぱり一つまた大きな仕事になっていくと思うんですね。やっぱりそのためには自主防災、防災士の人たちに協力してもらうことを私は必須だと思いますし、あと実際に個別計画を作った、もう既に経験のあるやっぱり防災対策課の担当の人たちに話を聞いて、ノウハウを教えてもらうのが効率的かなと今聞いて思いました。すみません、質問じゃないんですけど。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 今回の個別計画に関わってなんですが、以前は要支援者のファイルが自治会長さんに来よったんですよね。それ持って、自治会長が近隣の人にお願いしに行き、書き込んで保管やったのですかね。保管か返しよったか何か、それは今でもあるのですか。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 個別計画、この個別避難計画、今年から個別避難計画という、去年までは個別計画と言ってたんですけど、その前段階の個別計画の前に、ある程度地域でそういう台帳なりつくって、作成して、こちらもある程度、先ほど言われた名簿も提供しながらつくっていったのがあったんですけど、それが、この災害対策基本法が、平成25年ぐらいに改正になって、名簿をつくるということになって、ある程度やり方が変わって、そのファイルである、まだ持たれとる方もあると思います。そのときに、変わったときに、当時の防災対策課のほうに一度それは戻しますっていう形で持ってこられた方もおるんですけど、それを基に自分で、ちょっとそれに手を加えて自分らでつくられている方も、地域もあるんですけど、ちょっと内容としては古いかもしれんですけど。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 そしたら、今ほしたら、ちょうど過渡期で、ちょっと言い方があれですけども、宙に浮いとるといふか、そういう感じですよ。以前にあったものもなくなると。今の新しい個別計画もまだ作成中。ある地区の防災会とか地区においては、それ独自でやれとるけど、もう全然やってない地区もあるっていうことで、ちょうど端境期ということですか、現実には。

ほやけん、ある地区によれば自治会長さんがそういうものを把握してないとか、近隣の人が、それは近隣やけん何年か前にお願いしとったことが多分残って、その近隣の方は、頼まれた人は気には留めとると思うんやけど、そういう状態、今の現状はそういう状態ということですか。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 今回の状態としてはそういう状況で、先ほど石川委員長が言われたように、なるべく早く今現在渡せる名簿についても、渡したいと考えていますし、それになるべく多くの方が同意をいただいて、なるべく早く増やして渡せる。1人でも多くの方の名簿を渡せるようにしたいと思います。先ほど言いましたが、郵送での同意確認と、あと先ほど民生委員のほうにも話はしとるんですけども、その方が独居訪問等も行いますので、その中でちょっと同意確認のほうもしていただきたいと今のところ考えております。

○石川委員長 尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 要支援者の避難行動要支援者の名簿についても把握できておると。所定の様式調べたら、愛南町行政区別避難行動要請支援者リスト、行政区ごとにリストつくるとるやないですか。その様式今見たんやけれど、中には要支援される人と避難誘導の方とか役割分担のともあるんやけど、そちらのは、まだ確定してないということですか。個々のすばらしいリストが今見たらあった。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 役割分担という避難支援者の。

(発言する者あり)

- 守口防災対策課長** その役割分担っていうのが、先ほど言いました避難誘導であったり、そういうのを決めていくのがまだできてはいけません。その個別避難計画をつくって、そこで聞き取りをしながら、最終的には地域で実際にどの人が行くのが一番いいのか、特に恐らくはその近所の方で動ける方が一番いいのかなとは思ってるんですけど、そういうのもちょっと地域で話しながら決めていくという形になります。
- 石川委員長** 尾崎副委員長。
- 尾崎副委員長** 埋まってないですね、まだ。完成ができてない。これが完璧にできれば訓練によってスムーズにできるようになると。
- 石川委員長** 守口課長。
- 守口防災対策課長** 福浦ではある程度そこまで、各支援者に対しての要支援者に対しての避難誘導されてる、言いにくいので避難支援者を決めていって、一応訓練も、避難訓練して、呼びかけとその方が実際本当にそれで呼びかけができていくんか、またその訓練した中で、ちょっとあそこまでは距離があると、特に福浦については津波からの時間もあまりないということで、またちょっと見直しをかけるとか、そういうふうにはやっては行くんですけど、組によっては、支援者の要支援者の方ばかりのところも実際ありますので、そこは少し遠くの方であったり、消防団の方であったりっていうのもまたちょっと地元で話し合いながら、またちょっと決めていきたいと今のところ考えてます。
- 石川委員長** 金繁委員。
- 金繁委員** ちょっと話は、これまでの流れと違うんですけど、防災対策課って消防署の中にあるんですよね。物理的に離れているので、対策本部作るときはここに作るじゃないですか。そのたびに移動してくるわけでしょう。大変じゃないかなと思うんですけど、っていたんですけど、特にこういう防災計画と個別避難計画を作るとなると、各保健福祉課とか、ほかの課とも連携するということに、やっぱり例えば西平さんとかはここにこの庁舎の中に席を作ってもらおうとかして、日頃から密接にほかの課の職員さんと交流できるようにするとか、そういうことは考えられていますかというか、そもそも不便ではないですかっていうのが、珍しいですよ、こんな離れてるのね。
- 石川委員長** 守口課長。
- 守口防災対策課長** 県内でもあまりないんですけど、逆に上島町については、今年度、逆に町長部局から消防部局のほうに、また防災対策課のほうを移動させてます。うちの防災対策課としても、特に災害対策本部を立ち上げるのが多いのが、今の時期のこの豪雨であったり大雨警報であったり、あとこの後の台風の関係なんですけど、その場合には、消防本部の中に災害対策本部立ち上げるんですけど、その消防本部の中での体制が一番、初動態勢としては早い状態です。24時間当直の隊員もおりますので、私らが何かあって消防、今やったら消防署に駆けつけて、すぐその態勢をとると、今の消防署の場合は24時間必ず職員がおりますので、私らが行く前にある程度態勢を整えたり情報確認したりとかいうので、私らが行ったら、ある程度もうすぐ動ける態勢にはなってます。本庁になるとそれがなかなかちょっと難しい。
- ほかの市町に聞いても、その防災の職員が登庁した、役場に来てからの動きになるんで、一步、二歩遅れると、そこから担当職員が防災無線を放送したりっていうと、一步も二歩も遅れると、うちの場合はもう災害が発生した段階で、それを各自気づいたとなったら、すぐもう連絡等ですぐ放送体制もとれますので、特に今時期の豪雨の場合は24時間体制で、そのときの当直も約14名ぐらいいますので、特に夜、2年前の僧都川とか赤木川のあの氾濫とかがありましたので、そういう危険なところには夜もパトロール出して、昨年もちょっと危険なときには各家に、その豪雨のときに床下、床上浸水した家に

については直接呼びかけして、あれやったら避難してくださいというので、今のそういう豪雨とか台風の体制というのは、今の体制でいいかなとは思っています。ただ、大規模災害地震とかなれば、災害対策本部は必ず本庁につくる必要があるんで、その場合は私らがここに来て、本部を立ち上げればできますので、今のところはあまり、言い方あれですけど、不便とかというのはないです。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 ちょっと話はそれるんですが、ハザードマップですかね、あれの大判っていいですか、A1とかちょっと大きいやつですね。あれはないんですよ。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 ちょっと確認してみないと分からないんですけど、ただ、今年度ハザードマップを作り替える予定で、もう今入札も終わって進めています。その中で大判とか大きなのもつくりましますので、まだ枚数変更はできますので、ちょっとあれやったら少しその大きい分についても余分に作って、またそういう希望のある方、希望のある施設については配れるような形をとりたいと思います。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 1回ですね、防災地図をつくろうとしたんですけども、あれ大きいハザードマップがあったら、あれ大きいやつ、大きにしたら各住宅とか、家も入りますよね。出てくるんですよ。入っとんですよ。入ってないにしても、大判やったら自分で書き加えれますよね。それがなかったんで、いろいろ皆さん多分、自分らで住宅地図をしたりいろいろなことをしてつくったりしよると思うんで、できればそういう大判を用意してもろとって、各地区に提供して、逆に欲しかったら取りにきてくれとかじゃなくて、もうハザードマップを各地区に自主防災会に提供して、そこのハザードマップを、ほんでもう集会所なり避難所なりに貼っとってくれとか、そういうことをして常に目につくような状態をつくってもろたほうがいいんじゃないかと思います。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 なるべくそのように、前回つくったときもその大きなのをつくって、ちょっと集会所まで配ったかどうかは、各公民館とか町の施設には配ったんですが、今回つくるのについても各そういう多くつくって、いろいろなところに配れるようにしたいと思います。

あと、各地域でそういう図上訓練、図面を使ってしたいというときは、また別のこちらでつくって、ちょっともっと分かりやすいのがあるので、それをつくって地域のほうに持って行ってそれを使って、そのとき必ず職員も行って、DIG（ディグ）といっているどこにどういう危険があるとかいうことを勉強しますので、そういうのはまた地図をつくってこちらから持っていきます。

○石川委員長 ほかに質問ありませんか。吉村委員、ありませんか。

○吉村委員 監督官は、あれ何しよん。監督官。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 危機管理専門官、基本的には各自主防災会、地域に入って、そういう防災のことについて説明、防災意識向上のためにいろいろなことを話をしながら、また自分の経験も踏まえてそういう話をしております。

ただ、言われたように昨年、今年とコロナの関係で、思ったよりは地域での自主防災会が実施することができてなかったんで、うまくは行ってないんですけど、それでも、特に、来た令和元年度の10月から来られたんですけど、その半年間はかなり積極的に町内入られて、数もかなり多く、そのときはやっております。

○石川委員長 吉村委員。

○吉村委員 議会にも挨拶来られて、なかなか雄弁な方で、今までの経験を生かすということで大演説されとったんやけども、今言うたように、コロナの部分で今止まっとるということは、今は何しよん。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 今も行けるところには特に少人数でやったりするところには行ってますし、各学校のほうにも行って、防災学習のほうでは講師となってやっております。今週もずっと今、各学校に行って回ってやっております。

○石川委員長 吉村委員。

○吉村委員 ということは、啓蒙活動は一生懸命やっておられると。先ほどからいろいろ意見が出るとる部分のあれらも、啓蒙活動以外であれな分は、これそういう待遇で、待遇いか別待遇で町長が引っ張ってきたんでしょうけど、もう少し言葉悪いですけども、防災対策課でもっと利用したらどう、事務的なことも含めて。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 吉村委員言われたとおりで、それぞれその個別的にも回っていただくように今のところは考えております。

あと、事務的なものについても、ある程度なかなか今の職員で対応できないときもありますので、なるべくその自分の持たれている自主防のことであったりとか、研修であったりとか、そういうの事務的なことについてはなるべくやっていただくように、昨年度から、ある程度ちょっと事務的なものもやって、今のところは頂いております。

○石川委員長 ほかに質問はありませんか。

(「なし」と言う者あり)

○石川委員長 ないようですので、守口課長と西平係長はもういいんでしょう。いいんですか。

(発言する者あり)

○石川委員長 視察の関係がある。ではまだ。

続きまして、現地調査について、場所と日時を決めていきたいと思うんですが、御意見ある方、逆に、守口課長のほうから、こういうとこどうですかという提案があれば。

守口課長。

○守口防災対策課長 あまり現地調査、見るとこないかなっていうふうに思ってたんですけども、なかなか。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 ぜひそのモデル地区となる福浦とか、あと半島をちょっと心配なんですよね、孤立するんじゃないかと。魚神山とか、あの辺どうなっているのかなというの見てみたい気はします。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 それ福浦の分は、いわゆる本格的に会議を、先ほど言うた7月の分は恐らく顔合わせで、具体的などこまではいかん可能性があるんですけど、その後進めていく中で、その分でも構わないんですかね。それが9月とかになる場合もあるんですけど。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 今まで、その防災訓練一番熱心にやられとるような地区というのは大体分かっておりますよね。そういうとこをちょっと紹介していただいて、そこを見にいったらどうでしょうね。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 防災訓練。

(発言する者あり)

○守口防災対策課長 この7月、8月については、あまり防災訓練のその各地区での防災訓練ってというのは、今のところ予定が入ってないです。例年、緑が大体5月中にやっていたんですけど、この前区長さんから連絡があって、ちょっと秋以降に延期したいということで、今のところ、あまりまだ実施するところがない状況で、その秋以降については、柏であったり、柏、家串、船越とかってというのはちょっと考えとるという、まだ日程まではちょっと決まってないんですけど、10月ぐらいにやりたいという話はあったんですけど、その選挙の関係もあったりして、ちょっと日程がまだうまく組めてない状況です。その時分には、何地区かはするんですけど。で、例年熱心にやられてるのは、先ほど言ったその船越と緑と栄町と、あと平城の中心部のほうは例年避難訓練等されてます。あと福浦と。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 原田委員のおっしゃった、議長のおっしゃった熱心にやっているとところをぜひ見たいと私も思うんですけど、一方で、やっぱりさっき言った心配なところも見せていただけたらと、そこら辺、心配なところは必ずしも熱心じゃない可能性もありますし、そういうところの避難所の状況、備品とかも備えてらっしゃると思うんですけども、その現場を見せて、中を見せていただけたらと。

どうせ西海のほうに行くのであれば、この前町長がおっしゃってた西海の第2次避難所となる旧西海中学、この前ね何かちょっと見せてもらうことできなかつたんですけど、あそこも見せていただけたらというのが私の希望です。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 これ、時期的にはもうこの7月、8月ぐらいでということで、分かりました。いろいろと意見出していただいて、その中で現地視察、もし行くというのであれば、先ほど言うた、まず、できれば由良半島のほう、少し今から由良半島どうしていかというのをちょっと考える必要がありますので、できればそちらをちょっと見ていただいて、特に一次避難場所に多くの方が集まるんですけど、その中でも少し、恐らく数日はそこで待機する可能性もありますんで、そこでの拠点やないですけど、ある程度物資を備蓄したりとかいう場所やないですけど、そういうのもちょっと考えていきたいというのがありますので、できればその由良半島のほう見ていただけたらと思います。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 ありがとうございます。ぜひ、私はそれをお願いしたいです。ただ、半日ぐらい時間あると思うので、別に1か所に限らなくても、船越なり福浦なり西海のほうも見ることは可能だと思うんですけど。

○石川委員長 往復で2時間かかる間違いない。ほて、例えば家串、魚神山一番先の網代、分からんけど3か所回ったら、それだけで3時間から4時間ぐらいはかかる可能性がある。で半日で帰ってこれん。船で行きゃあ西海はすぐやわな。

(発言する者あり)

○守口防災対策課長 ここから由良半島のルートで、それぞれ、もし、行きか帰りにちょっと寄れるような場所というのを少し、探してはないですけど、見ていただくような形で。

(発言する者あり)

○守口防災対策課長 ある程度、今度の防災休憩施設、インターの付近のあそこら辺も上がっていただいても構わないと思いますので。

(発言する者あり)

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 そこらあたりは、もう正副委員長と防災対策課で相談して、もう決めてください。

○石川委員長 はい。日時はどうしましょう。こちらのほうで決めてよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 分かりました。それでは、現地調査については由良半島ということで、場所を含めて日程、これについては防災課と一緒に日程決めて、御連絡差し上げます。

続きまして、先進地視察について、御意見。

金繁委員。

○金繁委員 すみません。私何回も言っていますが、高知県の黒潮町がいいのではないかと思います。理由はもう言いましたけど、すでに個別計画をしっかりとつくっていらっしやあって、いろいろなノウハウを頂けるのじゃないかなと思います。

○石川委員長 ほかに御意見ありませんか。なければ、高知県の黒潮町ということで構いませんか。

(「はい」と言う者あり)

○石川委員長 日時については。

(発言する者あり)

○石川委員長 はい。分かりました。その時期も含めて、相手方のあることですので。

(発言する者あり)

○石川委員長 それもあるかもしれませんが、そのあたりの黒潮町の受け側の事情もあるうかと思えますんで、それちょっと調整さしていただいて、また御連絡させていただきます。よろしいですか。

続きまして、その他ありましたら。

金繁委員。

○金繁委員 旧西海中学校を第二次避難所にするというお話があったんですけど、あれはいつ頃決まったんですか。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 避難所になる。避難所というのは、もう以前からあそこは、西海中学校というのは、第二次というか町の指定の避難所に西海中学校、で下の西海保健センターというのは、もう前からなってます。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 じゃあ、たしか3月のこの前の議会で、先輩議員が御指摘なさってたんですけど、中浦中学、小学校か。とか魚神山小学校とかと、ともに旧西海中学校も県のサイトで売却、もしくは貸し付けるということで出されてたと、その担当が学校教育課だったということなんですけど、あの時点では、でも売出しもしくは貸付けになってたんですかね。今も学校教育課が管轄してるんですよ、避難所でありながら。それってどうなんですかねという質問なんですけれども。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 その貸付けの件はちょっとよく分からないんですけど、もし、どこかにそういう貸付けが、実際にするというのが、そういう話が上がれば、またちょっと協議さしていただいて、その貸付けもどこまで1階スペースを使うとかいうのもあると思いますので、その場合は、またその学校教育課と協議さしていただいて、もしそれが本当に、学校教育課が1階部分をそういうところで貸付けをしたいというのがもしあれば、2階、校舎やったら2階、3階を避難所にするとか、ちょっと、そのすみ分けやないですけど、そういうのも、本当にそういうケースがあれば、ちょっと考えていかんといけんかなとは思っています。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 今の時点では、県のポータルサイトからおろされてるのも私も確認したんです

けど、3月の時点では、貸出しもしくは売却の対象として載っていたらしいんですよ。

でも、いまだに学校関連の施設は、避難所であっても学校の教育課の教育委員会の管轄であるということなんですよね。その辺が大丈夫なのかなと、明日にでも災害が起きたときに、鍵は学校教育課が持ってますってということではいけないです。極端な話ですけど、管轄が、それぞればらばらでいいのかというような議論は中ではないんですかね。

○石川委員長 守口課長。

○守口防災対策課長 学校教育課とは協議しながら、特に廃校の施設については、財産的な、教育財産とかを、今学校やったら財産の処理が違いますので、それを普通財産に戻したりとかっていうので、普通財産というか、ちょっと私もそこ専門でないんで分からないんですけど、そういうので学校教育課から放すということになれば、防災対策課がその施設の維持管理というか、担当にはなってくるんですけど。ただ、今もう校舎の鍵とかいうのは、一応こちらでも預からせていただいて。

○石川委員長 本多局長。

○本多事務局長 はい。失礼します。先ほどですね、先進視察ということで、黒潮町ということで話のほうがまとまったかと思うんですけども、今ちょっと、コロナの感染状況を見ていると、高知県が全国9位で、人口10万人当たりの感染者数が8.74ということで、かなり多いので、代替案として、例えば県内であるとかそういったことも考えたほうがいいのかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○石川委員長 時期をどこにするかということで、現地調査が7月で、先進地視察が8月ということで、その時点で第一希望を、優先的に日時を、受け側の事情を勘案した上で決定するというところで。

その他何か御意見ありませんか。

(「なし」と言う者あり)

○尾崎副委員長 はい。それでは、以上をもちまして、本日の総務文教常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

総務文教常任委員会委員長